

市民の憩いの場として位置づけられた近代の合浦公園は、1945（昭和20）年4月、日本陸軍の要請に

よって全域が立ち入り禁止になった。その一方で、毎年挙行される公的行事の招魂祭は、敗戦色が濃厚にも



空から見た合浦公園。市営の野球場と競輪場の手前を旧奥州街道が走る。競輪場左下の木々のない部分が進駐軍に接收されていた敷地。1969（昭和44）年11月10日・青森県史編さん資料

かわらず5月に略式で行われた。

青森観桜会は1942

（昭和17）年から中止され

た。翌年、公園内に設置さ

れていた篠原善次郎（青森

市営バス創設の功労者）の

銅像は、金属類回収によっ

て撤去された。動物園がな

くなる一方で陣地構築がな

されるなど、園内は戦争の

拝殿として移築された。

1948（昭和23）年当

時の公園は、園内を東西に

横断する旧奥州街道の以北

が接收されていた。しかし

街道以南に位置し、公園面

積に編入されていた旧青森

中学校の敷地には市営野球

場が建設された。その東隣

にあった旧陸上競技場は、

敗戦後の資金難にあえぐ青

合浦公園通史⑤

占領と再生

中園 美穂

（青森県史編さん調査研究員）

影響が著しくなった。その結果、1945（昭和20）

年7月の青森大空襲で、公

園に隣接していた青森県立

青森中学校が罹災した。

敗戦後の1945（昭和

20）年9月、進駐軍は合浦

公園の全域を接收した。12

月13日に一部が返還された

が、近代の合浦公園を象徴

した招魂堂は、1949

（昭和24）年に諏訪神社の

して1954（昭和29）年

12月の返還調印式により、

残り全部が青森市と市民の

手に戻った。全国的に見て

も合浦公園の接收は長期に

わたるものだった。

返還されたとは言え、接

収されていた箇所は荒廃し、

旧建物の撤去も行わねばな

らなかつた。その結果、積

極的な公園の植栽と整備が

行われた。1958（昭和

33）年からは、青森専門店

会や商店会、そして観光協

会などの協賛により、公園

を緑化するため植樹祭が継

続され、桜も植樹された。

1968（昭和43）年4月

には、市民からサルや小鳥

などが寄贈され、子どもた

ちに人気の動物園が復活し

た。

荒れはてた合浦公園は、

青森市当局や市民の熱意と

厚意によってよみがえっ

た。松と桜の公園として再

生されていく過程は、いか

に合浦公園が市民憩いの場

として親しまれていたかを

良く物語っている。